

(秋季大祭を含む)お祭り

一年を通じて宗像大社ではいくつもの祭りや儀式が行われています。最も忙しい時期の一つは新年で、12月31日の真夜中から新年の幸運を祈るために数万人が大社を訪れます。宗像三女神が歴史的にも海路を守護し、ひいては全ての交通路を守ってきたため、交通事故からの加護を祈願する多くの人々が参拝に訪れます。

宗像大社春季大祭

宗像大社での年中行事の春季大祭(3月31日から4月2日まで)では、交通安全・繁栄・五穀豊穰を祈願し、精巧な十二単の着物を纏った巫女による舞が行われます。

七夕祭り

大島の中津宮では8月7日(日本の他の地域では7月7日)に七夕祭りが行われており、中津宮は日本で最初に七夕が行われた地とされています。中国発祥の七夕はこと座とわし座として表される、織工で天王の娘の織姫(織女とも知られる)と牛飼いの彦星(牽牛とも知られる)の恋物語です。二人は結婚後に務めを怠ったため、織姫の父は二人が会うことを禁じ、天の川で引き離しました。天王はやがて気持ちを和らげ、年に一度、7月7日に二人が会うことを許しました。祭りまでの1週間、島は飾られ、中津宮には精巧に彫刻された竹提灯が灯されます。

宗像大社秋季大祭

最大で最も重要な年中行事は、10月の最初の3日間に行われる宗像大社の秋季大祭です。この祭りは宗像三女神を称えるものです。二つの島に宿る二神が妹神・市杵島姫神を訪ねるために辺津宮に運ばれる10月1日のみあれ祭で始まります。多彩な旗を掲げた約150隻の漁船が神輿を護衛して本土に戻る勇壮な行事です。神官が歓迎の儀式を行い、巫女が美しい衣装を纏って手の込んだ舞を披露します。10月2日には境内で流鏝馬が行われます。10月3日の夕方、高宮神奈備祭と神々が天から降臨してきたとされる古代の祭場・高宮祭場での神事舞で祭りは幕を閉じます。

菊花大会

宗像大社では11月1日から11月22日まで菊花大会が行われ、境内に約3,000鉢の菊が飾られます。栽培者は逸品の花を創造的で色鮮やかな姿で展示します。この祭りは、子どもたちを祝う11月15日の七五三と重なります。三歳と七歳の女の子と、五歳の男の子が着物を着て家族と一緒に大社を訪れ、長寿と健康を祈ります。

